

被害、非住家の被害、こちらは括弧書きで書いてございますが、こちらにつきましては、まだ被害がこの数字で確定したわけではございませんで、非常に建物に土砂が迫っているとか、そういったところで今、仮の数字を入れてございます。

避難情報につきましては、本日の3時に避難勧告を出しまして、来海沢地区の一部9世帯19人、印刷の間違いでございまして、20人となっているのを19人と訂正をさせていただきたいと思いますが、9世帯19人に対して避難勧告を発令してございます。

5番の避難状況につきましては、同様に9世帯19人なんですが、今現在、朝になってお仕事に行かなければならないとか、あるいは地区の役員で、もう一度、来海沢に戻って状況を確認するというようなことで、避難所自体、西海公民館には8世帯10人が今いるという状況でございます。

6番の地域の状況としまして、先ほど来、申し上げているように、市野々地区、御前山地区が通行不能ということで、全ての道路が遮断というか除雪ができていない部分も含めて通れなくなっているということで、市野々、御前山それぞれ1世帯2名ずつ、計2世帯4名が孤立の状態でございます。

裏面に参りまして、停電の状況、断水の状況等も記載のとおりでございます。交通規制も今ほど言いました道路は通行できないという状況でございます。

今こちらのほうを早期に何とか開通するように、県のほうと調整をして対策を練っているところでございますし、孤立となった市野々・御前山地区、こちらのご家族につきましては、電気も今、通じておらないという状態でございますので、このままとても長くはいられないということで、防災ヘリ等を要請して安全な場所まで移動してもらおうと、そういうような手はずを整えております。

いずれにしても、土砂が、まだこれから雪混じりの土砂でありまして、緩んでさらにひどく広がってくる等々が想定されますので、市としましても消防団等も現地に張り付けておりますが、地区住民の生命を第一に、安全を第一に活動をしていきたいというふうに考えております。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

○議長（中村 実君）

これで報告は終わりました。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

2日に引き続き、通告順に発言を許します。

東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

おはようございます。清政クラブ、東野恭行でございます。16回目の一般質問でございます。発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、アフターコロナを見据えた地域経済の活性について。

- (1) コロナ禍で軒並み中止になった市民イベントの再開を支援する「パワーUP再開協力金創設(仮)」について、考えはあるか伺います。
- (2) 一般社団法人等の「地域活動団体に更なる活力を」ということで、市職員の積極加入を促してきたが、考えはどうか伺います。
- (3) この度の糸魚川市は、糸魚川市本町の民間企業の建物を取得したが、取得の目的と今後の展望について伺います。
- (4) 駅北周辺は昨年2月よりスーパーマーケットがなくなり、地域の高齢者も苦勞されております。糸魚川市において移動販売(スーパーマーケット等)の事業者へ支援制度はあるか、伺います。
- (5) 糸魚川創成塾が発足してから新規創業者も年々増えていますが、コロナ禍において苦境に立たされ、不安を抱えていると考えます。今後の糸魚川市として、新規創業された方々との関わりと取組をどのようにお考えか伺います。

2、官民連携のあり方について。

- (1) これからはアフターコロナを意識した経済対策やまちづくりの仕掛けが必要と考えます。時間をかけず、ダイレクトな情報収集も必要であると考えます。そのために、これからは担っていく若者・若手市職員に「直接市長と対話できる機会」が必要であると考えますが、いかがか伺います。
- (2) 糸魚川市において、地域おこし協力隊の「就任から愛着醸成から糸魚川定着」までのプログラムをお考えか伺います。
- (3) 糸魚川市において、地域づくりプランの策定が進んでおりますが、地域独自で災害時の要援護者に対する「一歩進んだ支援体制」策定の支援は可能か、伺います。

3、人口減対策について。

- (1) 子どもたちが誇れる「美山多目的グラウンド・美山球場」の整備について、糸魚川市公共施設等総合管理指針における今後の整備計画を伺います。
- (2) スポーツ・文化・芸術における「指導者育成支援」。現在の糸魚川市の取組について伺います。
- (3) 地域で頑張る部活動・子どもたちが輝く活動を「市ホームページに特集」で掲載するお考えはありますか、伺います。
- (4) 新型コロナウイルス感染症対応で、子ども誕生お祝い事業「商品券5万円」があるが、新型コロナウイルス感染症対応が終了後も継続の検討がありますか、伺います。
- (5) 明日の糸魚川を担う「ひとみかがやく日本一の子どもをはぐくむ子育て」を掲げる糸魚川市ですが、子育てにおける就労人材の確保は十分でありますか。また、現段階で就労人材の「市独自の給与ベースアップ」は、お考えにありますか、伺います。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(中村 実君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、新型コロナウイルスの感染状況等を見ながら、団体やイベントの支援を検討してまいります。

2点目につきましては、職員の地域活動への参加は、地域と行政の相互理解を図る意味でも必要と考えております。職員には一番身近な自治会活動等への積極的な参加を促しており、今後も継続してまいります。

3点目につきましては、旧東北電力ビルは駅前通りと本町通りが交差する好立地にあり、将来的なまちづくりに有効な活用が見込まれることから取得いたしましたもので、またもう一方、1棟の寄附物件で併せまして庁内の関係課により、活用について協議・検討してまいります。

4点目につきましては、移動販売車の購入や運営費等の補助を行っております。

5点目につきましては、創業支援ネットワークを構成する支援機関と連携し、相談体制を構築するとともに、必要に応じて専門家から戸別訪問やアドバイスをしていただいております。

2番目の1点目につきましては、まちづくりには若者の意見が大切です。ふるさとリバイバル25や青年会議所など懇談を行っており、今後さらに若者との懇談の機会を設け、まちづくりに生かしてまいりたいと考えております。

2点目につきましては、地域おこし協力隊は市外から着任することから、事前にミッションを明確にするとともに、受入体制を整え、活動がスムーズに展開できる取組を進めております。

3点目につきましては、地域づくりプランは、課題解決に向けて地域の皆様が話し合い、自主的・主体的な取組を定めるもので、地域が掲げた目標を達成するため、市が地域に入り、話合いの促進や計画策定の支援を行っております。

3番目の1点目につきましては、美山球場は中学生以上の利用者を対象とした野球の拠点施設として、また、美山多目的グラウンドは少年野球の拠点として、必要な整備を進めてまいります。

2点目につきましては、スポーツにおいては、指導者講習会等の支援を行っており、文化・芸術においては、文化協会を通じて視察研修など自己研さんのための支援を行っております。

3点目につきましては、市の広報紙やホームページにおいて、スポーツ大会に出場した選手や文化・芸術大会等への出場者・出品者情報の周知を行っております。

4点目につきましては、新型コロナウイルス感染症の状況を見る中で検討してまいります。

5点目につきましては、特に保育士は市営、民営を問わず人材の確保に苦慮しており、さらなる処遇改善について、国に要望してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

それでは、2回目の質問に入らせていただきたいと思います。順番を追って質問させていただきます。

「パワーUP再開協力金創設（仮称）」ということで、再質問させていただきます。

この1年間で市民が主体となる様々なイベントが中止になりました。団体ごとに昨年の運営内容と異なるとは思いますが、コロナ禍でも3密を避け、可能な範囲で開催された団体さん、いつ再開できるか分からない状況が続き、運営費に手をつけていない状況でモチベーションが低下している団体さん、「パワーUP再開協力金（仮称）」のネーミングについては適正か分かりませんが、4月以降、ワクチンの接種が始まれば今よりもイベント再開の機運が高まることと思います。

糸魚川市としても元気なイベント再開を願うべく、協力金、祝い金という形で少しでも手助けができないか、再度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

おはようございます。では、お答えします。

確かに議員が言われましたように、昨年、コロナ禍という形でイベントが中止を余儀なくされたという1年であったというふうに思っております。その中で、議員が今ご提案のパワーUP再開協力金という仮称でご質問されていますが、申し訳ございませんが、今のところそういった協力金という考えはございませんけども、新型コロナウイルスの今後の状況を見まして、市内の団体のイベントが再開されるという際には、各庁内いろんな団体とのお付き合いがございます。それぞれの団体の中へしっかり市の職員が入る中で協力をしていくという体制は取ってまいりたいと思います。

特に、地域づくりの観点におきましては、イベントも確かに全市的に昨年は中止をされました。その中であっても定期的な会合というのは地元の皆さん、団体の皆さんも開かれております。そういうときには市の職員もしっかり参加させていただいて、情報の提供ですとか相談、今後の展開についての要望と、そういったものを受け入れる中で、来年度はきっといい年になるように、市職員もバックアップさせていただきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私も実際そういったイベント等を行う現場に直接入って見させていただきますと、必ずと言っていいほど市の職員さんが入っていただいております。そういった中で、今後、糸魚川市の粋が感じられるようなイベントを実施してくださる団体に、強いエールを送っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

続きまして、2番目の質問に入らせていただきます。

一般社団法人等の「地域活動団体に更なる活力を」ということで、2つ目の質問でございます。

一般社団法人等の地域活動団体は、様々な世代の経営者で構成されている団体が多い実情です。市も一步踏み込んでこういった立場の方々と交流することで親睦を深めていただきたいと思います。活動の目的を共有し、成し遂げていく。この行動で市民と親睦を深めることができれば、信頼関係の構築と相互の有効な情報共有ができると思います。

団体側も市に積極的に理解を深めるための投げかけをしていく必要があると考えますが、案内をお持ちすれば、お試しでこういった団体の活動に参加していただくことは可能でしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

おはようございます。

民間の団体に市の職員が参加することは、その交流を通して情報交換であったり情報収集ができたりと、また参加した職員の意識改革にもつながったり、その職員の資質向上につながるという面もあると思っております。

さらに、議員さんがおっしゃるように、参加する団体にもよりますけれども、内容によっては官民連携につながる部分もあるかと思っておりますので、積極的な参加を職員には促していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。

「官民連携」とは、本来PPP、PFIのことを定義すると思うのですが、並んでいる言葉だけで意味を捉えると、官と民の連携を指すことにほかなりません。しかし、市民はこの「官民連携」という言葉をあまり使わないと思います。本当の官と民の連携とは「市民と行政が一緒になってやらんならんね」という声が、市民のほうから上がることだと思っております。

市職員が地域活動団体に入ること、まずはその「一緒にやらんならんね」という空気感をつくることができると考えております。我々市民から市役所のコミュニティに飛び込んで、その空気感をつくることはできません。ぜひ前向きにご検討いただきたいと思います。

続きまして、3番目、糸魚川市本町の民間企業の建物の件でございます。

建設から50年程度経過した建物の取得について、市民の中で疑問が広がっております。個人的な考えではありますが、駅北に広くつながった公共敷地ができることは、30年先の糸魚川市を展望すると、よいことであると考えています。より広くつながった敷地になれば、それだけ活用の展望が広がると考えます。

今、商いだけでは中心市街地を維持することに限界があると考えています。個人的な理想は、紫波町のオガールのようなPFIによる都市づくりですが、いずれ糸魚川市も都市機能を集中させ、市内に住む人にとって効率のよい便利な中心市街地を形成することで、糸魚川市の顔になり得ると考えています。

ですが、今現在、そのビジョンが明確でないと考えております。そして、駅北地区に住まれる方の半分は65歳以上の高齢の方です。若い世代をないがしろにするわけではございませんが、今まで歴史を積み上げていただいた、その高齢者の方々が納得していただけるような活用法、さらに将

来ビジョンを明確に教えていただきたいと思います、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

駅北大火によりまして、この復興計画をつくる中において、にぎわいの拠点という一つのイメージをそこに落とし込んで、それに向かって復旧・復興に努めてまいりました。そういう中で、結果は及ばなかったわけでありましたが、しかし、キターレという計画になかった、またその目的に沿ったものがそこにできた部分がございます。

そういう中で、今この取得させていただきました物件につきましては、また新たな一つの方向性も視野に入れたり、また今のこの復興計画の中で連携を取っていけるものにもつながっていけると思いますし、やはり施設を公共の施設の中に組み込んでことによって、可能性が広がったと思っております。

その辺を、やはりこれからじっくり、今までは大火で復旧・復興に限られた時間の中で駆け足で進めてまいりました。しかし今回は、これをじっくりみんなで検討しながら、どういう施設がいいのか。やはり議員ご指摘のように、若い人たちの意見、また住んでおられる高齢者の意見を聞く中で進めていければいいのではないかなと私は捉えております。

そういう中で、じゃあそれまで何もできなくていいのか。それまでの間はこういう使い方がいいんじゃないか。最終的にはこういうものに持っていきたいねと、いろいろな方向性があるわけでありまして。

そして、その市の中心地、そしてまた北陸新幹線に近いところ、国道に近いところ、いろんな可能性を秘めておる場所だろうと思っておるわけございまして、我々といたしましては、非常にいい、また検討する場が増えたのではないかと。市民の皆様方とそういったところを膝を交えて積み重ねて、また詰めていきたいなと思っている次第でございまして、議員ご指摘のように、いろんな人等の意見を聞きながら、まとめ上げていきたい。

そして、市の中心地につきましては、そこに営んでおる商店街の人たちや住んでおられる人たちもそうなんです、市全体のものでもあるわけでありまして、いろんな方々の意見をその中でまとめたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

行政経験の長い米田市長の口から、先々やれるかどうか分からないことは明言できないかもしれませんが、市民は5期目に挑戦する米田市長のビジョンを注視していると考えます。市民は4期積み重ねた米田市長にしかできないことを期待していると思っております。

駅北のこの建物だけに限らず、この先の4年間でどこまでやる。4年間なら進捗はこんなもんかという米田市政の都合だけではなく、30年後も市民に夢と希望を持ってもらえるビジョンを明確

にしていきたい、そのように思います。

5期目の挑戦は理解しました。しかし、お答えする必要はございませんが、米田市長は当選されたら6期目も挑戦されますか。もしされないのであれば、なおさら今、明確なビジョンをお示しいただき、我々市民と共有していただきたい。

一部の方だけかもしれませんが、市民は中心市街地に国道から車の流入、新幹線駅舎から人の流入が見込める場所になり得るのか注視しています。バイパス沿いに広く整備される駐車場や街歩きを意識した歩道、無電柱化による景観整備、未完の現段階では、「一体誰のために」と疑問が残る点が多くあります。市民に広くビジョンが共有されておられません。どうしていきいたいと言えるのは、今現在、市役所の中で米田市長しかいらっしゃらないと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私しか思っていないということと言われると非常に少し心外のところがございます。決して私は自分よがり自分一人で進めてきたことではないと思っております。いろいろなやはり意見交換を今までの中でもさせていただいたり、また、この商店街の皆様方とも女性の皆様方とも話をさせていただいてまいっております。

そういう中で、やはり限られた枠の中でどうしていけばいいのか、捉えた中で進めてまいった部分であります。そして、これはまた進め方の中においては、外部からおいでいただいて講演会をさせていただいたり、そういった人たちの意見もその中に織り交ぜてまいりました。

今回の取得した施設については、今言ったように、やはり今の施設だけでは、我々が理想とするものの中には少し限界があるわけでありますので、今ある施設は最大限、やはり今あるいろいろな制度やいろいろなその知識を織り交ぜながら、そこにワーケーションや、また、いろいろなほかの考え方を織り交ぜて、そしてこの人口減少の中において、外部からおいでいただいたり、そこで活躍できる施設として、また地元の人たちも含めてなんですが、新たな事業展開もできる形には、みんなで行っていきいたいなと思っております。

ですから、これはもう早急に、そういったところは、ただ単に施設を手に入れたということではなくて、今やれるものから取り組んでいって、その生かし方を早急にまとめていきいたいと思っております。

それには、やはり働く場を中心に、そして地元の皆様方と、その産業創造プラットフォームの皆様方がおられるわけがございますので、いろいろな意見をいただいて進めていきいたいなと思っております。

そして、そこでやはり地元の人たちとの経済活動ができるものに持っていきいたいという、循環型経済の環境を、そこで一つのモデルとしてなるようなものにも私はしていきたい。そして、それが核になって広がっていける部分もあるのではないかと。交通条件、そしていろいろな全ての条件が整っている場所ということでありますので、私はやはりそれを発信できるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

少し質問を戻りたいと思うんですけども、私の個人的な理想では、紫波町のようなオガールのイメージを持っております。例えば話合いの中でそういったお話が出てくれば、そういった検討の余地もあるのかどうか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1つの形にこだわっておりません。いろんなことに波及していくことは、私はいいと思っておりますし、柔軟な対応の中で進めていきたいと思っております。

しかし、コロナ禍で我々が感じたのは、やはり地域循環型の経済が絶対に必要ということになってくると、スピードをもってやらなくちゃいけないと思うわけでございます。厳しい財源の中で、それを絶対、やはりスピードをもって形として動かさせていただきたいと思っております。

しかし、内容については柔軟に、いろんなやはりやり方があると思いますので、そういった意見を、また情報をいただく中で、取組は進めていけるものと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

国道からの車の流入、新幹線駅舎からの人の流入が見込める場所になり得るのかどうか、その可能性はあるのかどうか、伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりその施設の活用の内容によって、新幹線駅、どちらかというところ、主体はやはり新幹線のほうを主体に考えていきたいなど。じゃあ、なぜ道路のほうは駄目なのかといいますと、この駐車場につきましても、やはり規模的に余裕がないのではないかなど。今、想定される以上になると、なかなか難しい部分がございます。

分散型の今駐車場みたいになっていて、市全体に活用するには分散型のほうが利便性が高いんですが、そういったことを考えたときに、今以上の駐車場というのはなかなか難しいところがあるわけですので、それを視野に入れられないということではないんですが、それを生かしながら、じゃあどうすればいいのか、現在のその施設を活用してどういう形でという形になろうかと思っております。



そういう中で、そういう車社会の中でそれを生かしていくことは、当然あると思っております。ただ、今まで他の都市にあるような建物の中に駐車場を造ったりというようなことは、発展的にはなるのかもしれませんが。しかし今の施設を生かしながらということには、ちょっと難しいのかもしれませんが。

そういったあるものをいかに活用していくかという、やはりその辺の苦労も、またあっていいのではないかなど。真っさらなところでやることも大切かもしれませんが、限られた条件の中でやっていくというの、また一つの楽しみと言ったらちょっと語弊があるかもしれませんが、やはり苦労していくことも一つの皆さんの汗をかく楽しみになっていくことになるのではないかなど、思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私、この4年間で関わらせていただいて、話し合っただけで十分されているなというふうに考えています。そういった機会を設けていただいたことに感謝申し上げますが、なかなか本音の部分が見えていない。本当、苦言もあればいい言葉もあれば、いろんな反応があるのかなと思います。次の米田市政は、そのビジョンを明確にしていきたい。強いリーダーシップで引っ張っていただく必要があると思っております。よろしくをお願いします。

続きまして、4番目の移動販売（スーパーマーケット等）の事業者へ支援制度があるかどうかの再質問でございます。

現在、市内において移動販売（スーパー等）の事業者の動きが見えてきております。これらの民間事業者に採算が合う運営のための支援はお考えか、再度伺いたいと思います。

その支援とは、移動販売（スーパー等）を必要とする高齢者の情報です。もちろんその高齢者ご本人様の意向があつての情報公開となると考えますが、要は、利用者が喜んでいただける商品のご提供と、事業者にとって採算の合う事業でなければ、これら仕組も長続きしないと考えます。採算の合う合わないとともに、事業の担い手の問題もあります。

言わば高齢化が進む市町村にとって、市民の生命を守る観点から、交通弱者に対する移動販売は公共サービスに該当する事業であると私は考えています。事業者は、残念ながら採算の合わない場所にスーパーを建設するわけにはいかないのです。同様に、採算の合わない移動スーパーに投資するわけにはいかないのです。

中山間地や駅北地域に限らず、市内の高齢化はこれからも進みます。現在の移動販売の形態は地域の事業者さんから伺うと、一軒一軒配達するようなきめ細かさが必要と伺っております。情報公開には慎重を期すると思いますが、既存の移動販売事業者さん、今後、進出するであろう事業者さんと綿密に、どうすればお客様にサービスが行き届き、どうすれば採算が合うのか、事業者さんの必要に応じ、話し合いの必要があると考えます。

今後は民間事業者だけでは立ち行かない問題になると考えています。まずは市から採算が合う運営を継続して行うことがどうしたらできるのか、人ごととは捉えず、事業者さんに歩み寄っていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、市内で買物に不便を感じておられる方に対しまして、移動販売をされている事業者へ運営費等の支援を行っております。今、言われたように、移動販売というのは固定費が高く利益の変動が大きいこともありますし、また、お客さんの数がそんなに多くないものですから、客単価に応じて不安定な状況もあるというふうに分析しております、そのようなことから、市民サービスの向上に資するこの企業の取組に対して支援をしているところでございます。

今、この補助金の要件の中には、高齢者の見守りを兼ねるといふことの要件も入っております、今言われたような、何ていいますか高齢者の方の個人情報等の取扱いにつきましては、今後さらにこのサービスをする中で検討をしていく必要があるというふうに考えております。

また、移動販売に限らず、事業者の皆さんがより利益を出していくためには、さらなる企業の努力も必要だと思いますが、それと併せて、市も引き続き、この移動販売に対しまして支援をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

おはようございます。私のほうからも一言、お答えさせていただきたいと思っております。

移動販売については、いろんなところでいろんなご意見をいただきながらやらせていただいておりますが、やっぱり高齢者の方がお買物をするといったことについては、大きなといいますか既存のスーパーでいろんなものを見ながらお買物をしたいというご要望もあるのかなというふうに思っております。移動販売だと、なかなか商品が限られているとかという課題も多分あるのかなというふうに思っています。

そんな中で、やはり高齢者の方がどうやったら外に出ただけなのか。また、歩くというのはなかなか難しいことであるとは思っておりますが、例えば公共交通であるとか、今の既存のバスではなかなか段差があったりとか課題もいろいろあると思っておりますが、お年寄りの方がどうやって今のスーパーとかに行けるのかといったことについても、少し検討する必要があるんだろうなと。

なかなか、ご用聞きみたいにいろんなところを回るのは大事なことだとは思いますが、今の既存のスーパーをどうやって利活用できるかといったことについて、今後も皆さんと議論をしていく必要があるなというふうに思っています。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

事業者さんのお話を伺っていると、今ご答弁いただいたような内容のお話と、なかなか厳しく

利益も上がらないということで、ちょっと疲弊している部分もございます。

そういった中で、ちゃんとサービスがお客さんに完全に行き届くということは難しいかと思うんですけども、まだまだ行き届いてない、そういうお客さんが多くないというお話もございましたが、やっぱりそこをクリアできるような、網羅できるような、そういった運営も目指していただければ、事業者さんも疲弊しないでやれるのかなというふうに思いますので、また対応のほうを、ぜひお願いしたいと思います。

続きまして、創成塾で新規創業された方々との関わりと取組について、再質問します。

2月28日日曜日、「糸魚川創成塾ファンミーティング2021 ONLINE」が開催されました。コロナ禍の状況においても積極的に交流を図る機会として、Zoomによる開催のようでしたが、どのような効果があったか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今言われましたように、先週の日曜日、創成塾のファンミーティングを行っております。本来ですと対面で行う予定でしたが、オンラインで行ったところであります。

これにつきましては、創成塾の目的であります受講者同士のネットワークを強化するために行っているものでありまして、受講の時期が違っていたり、また受講者以外でも創業に興味のある方、あと、また講師も参加しまして意見交換等を行ったところであります。

参加者自体は少なかったわけですが、お互いに近況報告であったり、また新たなチャレンジについても発表したりということで、中身については大変濃かったというふうに認識をしております。

できれば皆さんが集まって顔を見ながらできるのがベストだと思っておりますので、また状況を見ながら対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

コロナ禍が収束し、オンラインではないミーティングが元気よく開催されることを祈念しております。よろしく申し上げます。

続きまして、官民連携のあり方についてでございます。

直接、市長と対話できる機会について、再質問させていただきたいと思います。

形式はどんな形でもよろしいかと思いますが、コロナ禍の状況もまだ先が見えない状況です。コロナ禍でなくとも市長と直接お話しできる機会はなかなかありません。市長が我々市民の目線に下がってお話いただくことで、ダイレクトな情報収集ができると考えます。

市民はモチベーションが下がりつつも必死に前を向いております。若い世代の声を聴き、市長も肌で感じてほしいと思っております。モチベーションが低下している中、アフターコロナを意識した経済対策やまちづくりについて、現場の若手と向き合っていただきたい。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

前段の建物取得の中でもお話しをさせていただきましたが、私は本当に若い人たちと、また若い人たちだけではないんですが、市民の皆様方と話す機会というのは非常にありがたいと思っております。いろんなお考えを現在、皆さんお持ちであられるわけでありますので、本当に市民4万人強おられれば4万強の意見があると私は思っております。いろんな方々は、やはり自分の人生、また自分の知識、情報というのは個々にお持ちございまして、いろんな考え方がるので、やはり数多くの人と話す機会というのは大切に思っております。

今ほど議員ご指摘のように、トップダウンだけではないわけでありまして、逆にボトムアップのやり方というのは大切であります。そういったことを、やはり私は大切にしていきたいと思っております。

今いろんな制度やいろんな事業をやっているのも、そういったご意見の中から出ておるものも数多くあるわけであります。本当に今、前段でもご指摘いただいたように、買物についても本当に大切な市民生活、やはりこの事柄があるわけございまして、これからもっともっと、やはり高齢化社会が来れば大切になってきます。そして、人口減少になってくると、やはりこの商工費も厳しくなっております。

しかし、だからといって、市外へ買物に行かれる方、また、よそからいろんな手法で買っておられる方もおられるわけであります。そういったことを見直して、我々はやはりある程度まとまってやることによって、購入者の皆様方にとってもいいものになっていくだろうし、そういったところを、やはりしっかり考えなくちゃいけない。それにはやはり多くの皆様方の情報をいただいて、どんな考え方があるのかというのを把握することも大事だろうと思っております。

行政課題については、やはり市民とともに進めることが一番大切だと思っておりますので、機会は増やしていきたいし、またそういう機会というのを大切にしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

この2番目の質問で、タイトルで「官民連携のあり方について」と記させていただきましたが、2040年には糸魚川市の人口がおおよそ2万7,000人まで減少すると推計される今、私は一番、官民連携を実践しなければいけないのは行政と議会、ここであると思っております。いかがでしょうか。

私は、この4年間で、一部の議員とはあるかもしれませんが、議員と市長との対話が少なく物足りないと感じておりましたが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も、やはり日々活動させていただいておりますし、議員の皆様方も活動されております。そういう中で、かみ合わない部分もあるのかもしれませんが、しかし、こういう議会開催とか、また一般質問という内容のときにおきましては、やはり皆様方がしっかりとご意見いただくわけでございますので、私としては議員がいろいろなお考えをしているなというのは分かっておるわけですが、なかなか聞かれたことしか答えてない私に対しましては、皆さんはそういう気持ちをお持ちなのかもしれません。

そういった意味では、私は決して閉ざしているわけではございませんので、またいろいろ声をかけていただければありがたいと思いますし、きちっとした場というのは、なかなかつくりにくい部分がございます、皆さんに本当に迷惑をかけておるかもしれません。私といたしましては、日々、活動する中においては日程がちょっと詰まっておる部分がございますが、少し前もって、またいろいろと調整すれば時間を取れると思っておりますので、私といたしましては、決して拒んでおることはございませんので、これからも調整を図っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

数多く有効な対話ができるようにしていきたい。私もそう思っております。よろしくお願いいたします。

続きまして、地域おこし協力隊について、再質問させていただきます。

地域おこし協力隊と地域企業とのつながり、取組があれば教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、地域おこし協力隊でおられる方の中で、なりわいネットワーク事業という支援を務めていただいている方がいらっしゃいますが、一つのこの例でいきますと、いろんな産業に関わる人たち、それと事業者の皆様、そういった方々の結びつき、それから交流、それから情報交換、こういった中で新たな商品ですとかサービスをつくり出し、この販売の仕方とかそういったところに関わっておりますので、引き続き、こういった地域おこし協力隊は市外の方ですので、新しいやっばり感覚を持って、地元の事業者様と一緒にイノベーションを起こしていく。そんな取組ができればいいなというふうに思っております。

今、実例でいきますと、なりわいネットワーク事業で活躍されている方が一つの事例かなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

地域おこし協力隊の方々に、将来どうしたいか、糸魚川市に残りたいか、本音の聞き取りをされておりますでしょうか。面接の際、そういった調書を取っているかと思いますが、継続的にそういった聞き取りのほうをされておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

まず、地域おこし協力隊の募集のときに、しっかりこういうミッションといいます、やっぱり目的、糸魚川市で何をしたいのか。そういったところをしっかりとビジョンとして募集をかけております。その中で、こちらで3年間体験をしていただいて活動していただく。できれば定着をしていただくというのが一番のシナリオであります。

その中で、まずは着任していただく前の段階で、しっかり糸魚川を知っていただく。糸魚川の皆さんと、今そのミッションで本当に合うのかとか、そういったところから入ってまいります。その中で、担当課の職員、私どもになりますけれども、協力隊と定期的に面談をする中で意向を確認しながら、将来やっぱり起業か、もしくはその生業でそのまま行くのか、そういった相談をしながら、住まいも含めてでありますけれども支援をして、しっかり意向を確認して、できれば定着をしていただくようにという形で進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

地域おこし協力隊については、地元定着に関して期待のかかる人材であると考えますが、新潟県においては平成31年度で定住率が72.8%と高い数値でありましたが、糸魚川市における定住率はどのような推移でしょうか。現時点で分かる統計を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今パーセンテージはちょっとあれですけども、今、この制度が始まってから8名の方を協力隊の形で受入れさせていただいています。そのうち任期が終わったりとか途中でちょっと違う方向へ進まれた方もいますが、一旦任期が終わった中で、お一人に定住していただいたんですが、ちょっとご都合があって転出をされてしまいましたので、今のところ協力隊としてここに定着しているという実績は、残念ながら今はないというところであります。

これからも任期を終える方がおりますので、しっかり定着していただくように努力はしてまいり

ます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

補足してご回答いたします。

先ほど話題になっておりました、なりわいネットワークの事務に携わっていただいた協力隊につきましては、この3月で任期が終了するわけですが、現在、任期終了後も糸魚川に定着して、また自分でも起業されて残っていただけるというふうに聞いておまして、今そのような状況となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

3月終了で、その先の予定も決まっているということで、大変喜ばしいことと思いますが、一番大事なのは、やっぱり関わっている人たちが残ってほしいという気持ちをしっかりお伝えすることじゃないかなと思います。やっぱりその関わりが心地よかったり、そういう気持ちよさがあると残る可能性も高まってくるんじゃないかなと思いますが、市の職員の皆さんは、そういうふうなお気持ちをお伝えしていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かにしっかり残っていただけるように、まずは一番着任の前からしっかり見ていただいて、糸魚川をよく知っていただく。職員もしっかり本気で向き合う。そういう形で取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

平成31年度の総務省の統計で、地域おこし協力隊で地域に定着された方の3割の方が起業されているようですが、糸魚川市において、地域おこし協力隊ビジネスサポート事業と糸魚川市の関わりがあればお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

まず、地域おこし協力隊ビジネスサポート事業につきましては、総務省のほうで起業に向けての専門家によるアドバイスですとか支援というところになります。ちょっとこちらのほうはハードルが高くて、今のところ糸魚川市では該当がございません。

しかしながら、ビジネスサポート事業も同じでございますが、任期を終えた後に起業するという場合の支援制度というものは設けておりますので、そこら辺を活用する中で、しっかり対応しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

3割の方が起業されている統計が出ております。やはりそういう意味では、こういった地方のほうで起業しやすい、そういったチャンスがあるのかなというふうにも感じておりますので、十分なサポートをお願いしたいと思っております。

続きまして、3番目の一歩進んだ支援体制策定の支援について、可能か、再質問させていただきたいと思っております。

駅周辺の市街地は高齢化が進み、独居高齢者も年々増えてきております。災害時の要援護者に対する支援体制を整えたい、このようなご相談をいただいております。いざというときに地域だけで考えて実際にアクションしていくには、正しい知識と地域の特性に合った対応策が必要であると考えます。

ここで、地域の課題に対してご指導をいただきたいと考えますが、いかがでしょうか。地域づくりプランは、先ほどの説明にもございましたが、目標の見える化と地域で危機感を共有することが大事であると同っております。力を貸していただきたい。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

市内でも14地区で地域づくりプランをつくっております。その地域によっていろんな取組がされております。地域振興メインのところ、中には防災ですとか助け合いですか、そういった取組も地域で課題だと思っておれば、自主的・主体的に目標を掲げて、何とか解決しようという住民のパワーというのはあります。

それぞれ地域によって課題は異なっておりますので、その課題をしっかりと行政、市職員、地域担当職員のほうも酌み取る中で、地域には積極的にお声がけをしながら、こちらから逆にどうだというようなこともありますので、積極的に地域の課題解決に向けては、取り組ませていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕



○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、今、地域づくりプランで地域の課題を解決しようというような進め方を行っていただいております。支え合いという形になっておるところがちょっと多くなっておるんだらうと思っておりますが、しかし積極的に地域振興していこうというところもございます。

やはり地域の問題を深掘りしながら、ただ単に今、困っているから何とかしてねということではなくて、自分たちのところの一番の課題は何か、そういったところを深掘りする中で、行政とやはり解決に向けていく方向がいいのではないかなと。

各地域は市内同じような状況かもしれませんが、それぞれまた違っておる部分がございます。そういったところを地域づくりプランの中で、より鮮明にして、お互いにやっぱり行政がやらなくちゃいけないものもあるわけでありますので、そういったところを連携しながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

この地域づくりプランは本当に地域の自主性が問われるプランと聞いておりますが、やはりそういったことを前提に、今は「教えてください」「どうやればいいんですか」と一歩前に進む準備段階なんです。そういったところで、ぜひお力添えいただきたい、このように思います。

続きまして、人口減対策について、1番目の多目的グラウンド、美山球場の整備について、2回目の質問をさせていただきます。

多目的グラウンドについては、ベンチの日よけやグラウンド面の整地について、改修工事に取り組んでいただける旨のお約束を今年の要望活動の折にいただきました。今まで多目的グラウンドの要望は、再三にわたり生涯学習課にお世話になりました。少年野球の名称変更はかないませんでした。練習や試合をしていると自然とOBや関係者が集まる多目的グラウンド、あそこは市外からも認知の高い場所であると思っております。関係者が帰ってくる場所、そんな場所を糸魚川市に増やせたらと思っております。

アルビレックスが毎年、交流戦を行ってくれている美山球場は、外野のフェンスが両翼92メートル。アルビレックスの関係者や野球関係者の方に言わせれば92メートルの両翼で事足りるとお考えかもしれませんが、子供たちがどう考えているかご存じでしょうか。大人が「両翼95メートル以上なんて必要ないよな」という問いかけをすれば「そうですね」と答えるでしょう。本音はどうでしょうか。

少年野球でも糸魚川の選抜チームに所属することで市外遠征が始まります。中学生になると遠征の頻度はさらに増えます。どんな球場で野球をしたいか尋ねると、どこそこの市民球場はよかったと必ず具体名を挙げます。20年以上経過していても規格どおりの球場にはそういうコメントが返ってきます。

数年で少年野球チームが編成できなくなる時代も近いと思っております。そうなるからの外野拡張工事は非現実的になると考えます。サッカーは既に市外遠征をしないと試合を組むことすらできないのです。そうなるからでは環境整備は不可能になると考えています。ぜひご検討いただきたい。

いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苅生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苅 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅 真君）

お答えをいたします。

これまでも糸魚川市野球振興会を通じ要望いただいておりますし、また、以前にも東野議員から一般質問で取上げていただいております。そのときにつきましては、特に高校野球ということでお話をいただいたかと思っております。やはり高校野球が誘致されるということは、おっしゃられたとおり競技人口や競技力の向上という観点から見ても大変有効だというふうに考えておりますが、一方、費用対効果という面もございますことから、前回のお答えでは、今のところは考えていないというお答えをさせていただいたかと思っております。

その考え方につきましては、現在のところも変わっておりません。今のところは両翼の拡幅ということは考えておりません。確かにおっしゃられるとおり、人口が少なくなり、競技人口が少なくなってくるというのは承知をしておりますが、今の段階でなかなかそこを拡幅するというのは困難であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

現実的に、整備をするには多額の費用2億2,000万円程度というふうに前回、答弁いただいておりますが、今いろいろな方法で資源の集め方があろうかと思えます。本会議初日、米田市長のほうからクラウドファンディングのような、そういう集め方も手法としてあるようなお話がございました。そういった手法も踏まえながら検討できればいいなと考えておりますので、また真剣に前に進めていきたい。そのように考えておりますので、お力添えいただければというふうに考えてます。

続きまして、2番目の指導者育成支援について、質問させていただきます。

今回はスポーツだけに絞って2回目の質問をさせていただきます。

公益社団法人日本スポーツ協会、公認コーチ1（旧公認指導員）養成講習会という地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等でのコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供する方のための資格があります。

先般、ある会議に参加させていただいたのですが、そのクラブチームの監督さん、コーチからお話を伺いますと、これら資格を全て自腹で賄ったと伺いました。これから、こういった指導者の資格保有がチームに1人義務づけられると伺っております。カテゴリーとして子育てに関することであることと考えますし、受講から資格の交付までに約2年間を要するとも伺っております。

資格保持に資金面がネックになり、資格取得を取りこぼしてしまったということのないように、糸魚川市としてもバックアップしていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えをいたします。

市が今現在は、直接的に指導者の方に助成といいますか支援をしているということではありませんで、スポーツ教会を通じて支援をさせていただいております。具体的には資格取得のための講座ですとか、それからジュニア団体の指導者の講習会等に対する年間での補助ということを行っております。

ただ、議員さんがおっしゃられるとおり、今後その指導者というのが重要な役割を果たすということは承知をしておりますので、今後につきましては、またスポーツ協会のほうとも支援について検討させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

これから中学校の部活動も働き方改革により、学校の先生が顧問として行うのではなく、外部指導者が中心になってくるのではと考えております。糸魚川市としても情報の輪を広げ、いち早く着手していただきたい、このように思います。よろしく願いいたします。

続きまして、3番目の市ホームページに特集の質問でございます。

地域の情報は、新着情報で毎日更新されておりますが、様々な種類の活動が情報として流されています。糸魚川市のホームページは「ひとみかがやく日本一の子育て」をうたう糸魚川市のアピールが足りないと感じています。地域で頑張る部活動、子供たちが輝く活動を集めるとまで行かなくとも、ブログのジャンル分けのような形で検索が可能にすることはできませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えをいたします。

現在も国際大会等や全国大会等に出場する場合につきましては、大会名ですとか選手名ですとかというのを公表させていただいております。それについても議員おっしゃられるとおり、情報の発信については、少し弱いのかなというふうに感じておりますので、来年度に向けて、また検討してまいりたいというふうに考えておりますし、子供の活動について、年に1度程度、また特集が組めればいいなというふうに私も考えておりますので、それについても検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私も親である立場でも、やっぱり何度も見返してみたいくなる、そういったホームページを目指していただきたいと思いますし、糸魚川市のホームページがそういう場所であるというホームページ作成を願っております。よろしくお願いいたします。

続きまして、4番目を飛ばしまして5番目について、再質問させていただきます。市独自の給与ベースアップについて、お考えがあるかどうかでございます。

「日本一の子どもをはぐくむ子育て」をうたう糸魚川市の就労人材不足の根本の原因は何であると思いますか。単純に賃金面だけではない何か根深い理由があるのでしょうか。子供が少ない理由はどこにあるとお考えか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

人材不足という観点でお答えをさせていただきますが、特に保育士につきましては、少子化とはいいながら、今、3歳未満児の入園者の増加で、国の配置基準によりまして、より多くの保育士が園に張り付かなければいけない配置が必要となっております。これは、糸魚川市に限らず全国的な課題となっております。地域間、あるいは保育園間で保育士の取り合いというふうになっている状況であります。

また、人口減少に伴いまして、子供たちの数が相対的に減ってきておりますので、保育士を目指す方も、やっぱり減少してきているのかなというふうに感じています。

確保のためには、当然、議員おっしゃられるとおり、給与を含めた処遇改善、あるいは環境改善というのは当然必要なことだというふうに思っています。ただ、人材不足は保育士、子育て支援に限ったことではありません。また、保育については、市内には私立の幼稚園、保育園がありまして、そういったバランスも必要だというふうに思っています。

給与改善というところに関しては、私立の保育園対象ではありますけれども、国も保育士の処遇改善に予算を投じている状況でもあります。よって、新潟県の保育連盟というものも組織されておまして、そういったところを通じながら、さらなる処遇改善の予算確保というものを国のほうにも要望しておりますし、今後も継続をしていきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

国に対して処遇改善を要望していかれるということなんですけれども、私の質問は、やっぱり日本一を目指すのであれば、市独自のものも必要でないかなというふうに思っております。課長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会子ども課長（磯野 豊君）

先ほど私が申し上げたとおり、必要な人材を確保するには、処遇改善というものは当然必要だというふうに思っています。ただ、保育士だけとか子育て分野だけ人材不足ということではありませんので、そういったところを総合的に市として見ながら、検討してまいりたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

そういった中で、日本一をうたうのであれば、どこだというところをちょっとお聞かせいただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野子ども課長。〔教育委員会子ども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会子ども課長（磯野 豊君）

給与の改善もそうだと思いますが、働くというところは、やっぱり働きたいと思わなければ当然、働かないわけですし、そういった給与のほかにも、やっぱり要素があるんだろうなというふうに思います。

働いて、やっぱり子供たちが笑った姿を見て、ああ、よかったなというような気持ちも含めて考えていきたい。そういった環境も含めて考えていきたいと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

私は、日本一働きたくなる職種として、子育ての環境を整備していただきたいと思っています。駅北にも、子育てにまつわるそういった施設を考えておられるようですが、そういったところで人手不足が給与面だけじゃないということは重々分かっておりますが、まずはその整備からだと思っております。ぜひご検討いただきたいと思っています。

以上で、16回目の一般質問を終わりたいと思います。17回目も質問できるように邁進してまいりたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（中村 実君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

11時半まで暫時休憩といたします。